

武庫川流域委員会 委員長松本誠様

武庫川を愛する尼崎市民の会 丸尾雅美

第40回武庫川流域委員会へよせる

基本高水は100年1回の洪水か 過大設定と新規ダムはやめにして

基本高水の設定の仕方について、国交省の河川砂防技術基準による従来の解析方式が、科学的に正しく確立されたものとは言いがたい。従来の方式については、河川工学や水文学の専門家からも批判や疑問が投げかけられている。すなわち、過大な基本高水を導くことでダム建設を妥当とし、私たち住民の莫大な公共資金を費やして、自然破壊を進めてきたことに、いま反省の眼が向けられている。

具体的には、基本高水の設定において、計算されたピーク流量群からカバー率100%を採るか、カバー率50~60%を採るかという議論としても現れている。この状況は一般住民を納得させるものではない。

従来の基本高水は1/100年確率の雨量から計算されるもので、決定された基本高水を超える洪水の発生確率が100年に1回ということの意味しない。このことについて行政側の説得ある反論を聞いていない。最近、降雨パターンを平均化し、総合確率あるいは複合確率という考え方で、実際に起こる洪水流量に沿う基本高水の決め方が提唱されている。従来の国交省の基準による手法を批判的に正そうとするものと受け取れる。答申の期限が迫っている現在では、総合確率および複合確率という新しい方式を採用するのはかなわぬとしても、その考え方が、基本高水の高低を検証し選択するについて、重要な指針としての役割を果たせると考える。

これからなお、全国の河川で基本高水が決められていく。治水・利水にくわえ環境が重視される今日、過大でない基本高水の設定が、ぜひ必要だ。

総合確率および複合確率の手法について、公開されていないワーキングチーム内の議論だけでなく、住民にたいして、専門家と県当局による、分かりやすく納得のいく十分な説明を求めたい。

2006年4月28日